

2005年～2006年

年越し槍ヶ岳合宿報告

メンバー：(L) 迫、大木、柴田(敏)

日時：2005年12月29日～2006年1月1日

山域：北アルプス 槍ヶ岳

ルート：中崎尾根ルート

目的：冬季合宿

当初、迫の初リーダーということで、西穂高岳を計画していたが、柴田さんの参加が可能となり、フォローしていただけるということで、槍ヶ岳へ変更した。これが、11月末。その後、12月には、準備山行として2度、那須の朝日岳東南稜を登り、強風、ラッセル、アイゼン等のトレーニングを行い、各自の技術確認を行った。

また、ここでの強風を体験したことが非常に役に立つこととなった。

今年は、気象庁の冬季予報が大幅に変更されるほど、高層のジェット気流が蛇行し、大寒波となり日本海側は大荒れ、大雪となっていたため新穂高までたどり着けるかを心配するほどであった。また、計画も全装の大喰岳経由のルートから、中崎尾根の上部をBCとして槍ヶ岳の往復ルートへと変更した。

28日 21:00 集合：この時の天気は晴れ、星が出ている。

一路、東北道～50号～北関東道～上信越道～長野道を経て松本ICへ。

R158を走り、安房トンネルを抜けて新穂高へ。

途中は渋滞も積雪も無く、心配していた積雪渋滞や通行止めも無くあっさりと到着(29日 1:48)。

実は、このとき仮眠のことはあまり考えていなかった。

ネットのあるHPでは「床暖房が効いた開放されたところで寝た」とあったことだけが頭に残っており

それがどこなのかまでは、はっきり調べていなかった。。。

28日から開設した登山指導センターで計画書を出し、その場所を探した。

とある場所にそれを見つけ、シュラフ、マットを出し、今夜はそこで足を伸ばして仮眠することとした。

29日 5:00 起床(晴れ)：シュラフ等を片付け、コンビニの朝食を喰らう。

車を冬季無料の駐車場(登山道口の上の駐車場)に移動し、装備点検、着装し6:45出発。

直ぐ裏にある真っ白な山が朝日に美しい。

ここから、白出沢までは林道歩きとなる。かなりのラッセルを予想していたが、林道であることもあり、脛程度の新雪であった。今日は自分たちよりも先に入っているパーティーはいないようで、気持ちよく、トレースを残し進む。

8:12 穂高平小屋通過。真っ白で広い雪原。誰もいない、踏み跡もない、すごく気持ちよい。今年の悪天候の情報がウソのようだ。

9:27 白出沢通過。入山前は、ここの沢を含め、ブドウ谷、チビ谷、滝谷など右俣谷左岸からの雪崩を警戒していたが、予想に反し雪崩などは無かった。(一応注意しつつ通過)

(28日の午前中に、開設されたばかりの登山指導センターに問い合わせたが、まだ、下山者もなく、おまけに天候不順のためヘリも飛ばせないとのことで、雪崩などの情報は得られなかった)

滝谷出合から見る滝谷の壁はすさまじく、こんなところ登る人がいるのか？飛ぶ鳥も寄せ付けぬとは正にその通りと思うほど迫力満点のものであった。

そのあたりから、迫がパワーダウン。。。チビ谷では例の如く、腿が攀りはじめた、今日のテント地の槍平までは15分程で、トレースもあることから、ボン、ハンターには先に行ってもらいテント泊地を見ておいてもらうことにして、自分はだましまし進んだ。(情けない。。。)ナトリウム不足だそうです。槍平の小屋を過ぎ。。。行き過ぎてしまい、翌日の中崎尾根取り付きを過ぎてしまった。

(これが翌日、功を奏することになる)

飛騨沢と左右の谷からの雪崩を避けられるところをテント地として雪面を固めテント設営(2100m)。13:30隣のテントの人は明日の大喰岳の取り付きまでのルートにトレースをつけてきたらしい。

テントの中では事件が。。。プラティパスの口が開いてしまい、水がこぼれた。ハンターの寝床の下が水浸し。幸い雪の床の窪んでいるところに水が溜まり広がらずに済んだが、初日から思いやられる。

(すみません。トホホ)今日から2,3日の間、天候は安定して晴れるはず。満点の星空を期待して夜外を覗くと。。。雪が降っている。う～ん。

30日 5:00 起床(風雪)：朝食、準備、テント撤収。7:20 出発

飛騨沢沿いはまだ風は弱く、雪が降りしきる天候である。

本来のルートは槍平から直接中崎尾根へ登る支尾根へルートを取るのだが、雪の状態も安定しているようなので飛騨沢沿いを登り大喰岳へのルートとの分岐あたりを右岸へトラバースし中崎尾根への支尾根で上へでることとする。もちろん、トレースなど無く、飛騨沢を登る時からほとんど自分たちが先行してのラッセルだった。(膝上から、腿くらい)

中崎尾根へ突き上げる支尾根を探しつつ、効率的に（楽に）登れるルートを探し斜上する。

8:45 支尾根取付き(2235m)昨日のテント場から高度で約 135m。あまり登り過ぎると飛騨沢下部となり予定しているテント地を過ぎてしまうため、高度と地図を気にしながら進んだ。

時折風で雪が舞い、顔に痛いほどであるが、那須を思えば大した事は無い。

まつげに氷が付く、視界をさえぎる。払いのけるが、自分の吐息がまた直ぐ氷付く

取付いた支尾根を登りきり中崎尾根へ出ると、ちょうど森林限界であった。この先、千丈沢乗越への上り口の広々とした場所へ進みテント設営の予定であった。が、中崎尾根に出たから1時間位進んで予定地付近を見てみると、積雪量が多く、また、飛騨側に雪庇もできていてとてもテント設営できる場所ではなかった。仕方なく、テント設営地を探し引き返す。はじめに中崎尾根に出た場所がよさそうであったが、既にそこは後からきた4人パーティに占領されていた。。。このパーティは自分たちのトレースを辿ってきたようであった。う。。。。（後で見るとそこは、木の根があって深くは掘れ下げられないところと思われたので風雪を避けるには不向きだったようだ。そのパーティは翌日撤退している）

今回作るテント場は翌日のBCとするのできっちりとした場所を確保する必要があった。

自分たちはそこから20mほど下った斜面を削りテント場とした。(2480m)13:15

斜面を1.3mほど掘り、トイレ場も作り完璧なBCに仕上げた。

始めはそこから50mほど上部で設営しようとしたが、稜線上であり強風を避けるため1m以上は掘って風雪を避ける必要があった。が、そこは直ぐに笹が出てきてしまい設営できなかった。



テント内では、時間も早いので、ラーメンを軽く食し、美味しいワインとチーズに舌鼓をうっているうちに眠くなってしまふ。。。眠い！

夜になって風が強くなってきた。雪も強くなってきた。明日の作戦を立てる。

天気予報では、この後元日以降の天気の回復は望めない、従って停滞しても天気が回復する見込みはないので暴風雪ならば、撤退する。

歩けるようであれば西鎌尾根まで登り、北アルプスの強風を体験し、いけるところまでは行く。が、時間を決めてそこから下山とする。

晴れていればもちろんGO！

装備は、肩ノ小屋での停滞も考えたが、先のように停滞しても回復の見込みが無いので、厳しい状態になる前に戻ることを前提とし、スピード重視で軽量化を図っての準備をした。

（シャラフカバー、ツェルト、パーナーヘッド、ポンペ、ヘッテン、登攀具、ロープ程度）

寝る前にテント周りの雪かきをする。

31日 4:30 起床（強風）：相変わらず風が強い、あきらめかけて、外を覗くと。。。満点の星空が！！

「これは行ける！」ハンターの一言で、皆目の色が変わり、意気揚揚としてきた。

ハンターが言うには、風の強弱のピッチ間隔が広がってきていて、天気予報と、この星空、なので晴れる！と確信したそうである。自分はまだまだ未熟です。勉強させてもらいます。

出発前にテント周りの雪かきをもう一度する。

6:50BC 発。ワカン装着で昨日のトレースをたどり千丈沢乗越取付きまで進む。少し登ったところで

ワカンからアイゼンへ履き替えて登攀になる。一応ロープを出し、ハンター先行で2ピッチ。

各登山本に出ているルートより若干右を登ったため、ちょっと厳しい部分もあった、本来ならば、もっと左のカンテ状を行けばフィックスもあり、ホールドも豊富に見えた。（フィックスはあるが信用できない）その後少しコンテで行くが、ロープ必要なしと判断し、スピードアップを図るべくロープを外す。

10:00 西鎌尾根の千丈沢乗越（夏道）。前にも、後ろにも誰もいない。気持ちがいい。

西鎌尾根は風が強かったが、那須で体感したほどではなく、皆気持ちに余裕をもって耐風を取っている。このときほど、「那須の強風のありがたみ」を感じたことは無い。

西鎌尾根の上部の25000 図やルート図に出ている夏道は、ピラミッドピーク下から右の広いルンゼをトラバースしやや広めの尾根のガレ場を登ることとなり、自分達もそのルートをとった。

が、トラバース部は雪がやや吹き溜まりぎみで距離も長く、急斜で、風がモロに抜けるところであり、

耐風を何度かとり、いやらしいトラバースとなってしまった。

この時期の積雪期であれば、ピラミッドピーク下部沿いを右に巻きながら登るのが正解かと思われる。

(下りではそのルートをぬけた)

その後は、岩稜帯を登りつめていく。気がつくとも肩ノ小屋手前では、目の前に槍ヶ岳+小槍、後ろには真っ白に雪を被った笠ヶ岳が眼下に控えており、撮影大会となる。左手の裏銀座方面の雪山も美しい。この頃になっても、後ろから登ってくるパーティはいない。途中まで登る人はいたようだが、その後見えないし、下山時にすれ違うパーティも無かった。

12:20 肩ノ小屋着。荷物をデポし、ピッケル、カメラを持って槍ヶ岳へアタック！

この頃になると、風もなくなり、今朝までの天気がまるでウソのような超快晴！ピーカンとなる。

最高の天気である！

槍ヶ岳への登り。クサリ場あり、ハシゴありなので、油断していたら、なんとテカテカの雪面が一部あった。アイスクライミングよろしく、ピッケル+アイゼンを効かして慎重に登る。

登りは良いが下りは怖い。1,2人下りの人とすれ違い、山頂へ。

12:50：槍ヶ岳山頂！！バンザーイ、思わず皆叫んだ！自分は思わず感激のあまり涙ぐむ。

神様！ありがとう！そんな気持ちにさせられる。

昨年10月に単独で来たときは曇天で展望など無く祠を見ただけであったが、今日は違う。

360度大展望！北鎌が足元に伸び、西鎌尾根から、裏、表銀座が広がる。西は笠ヶ岳、遠くは白山。

南は、手前に大喰岳から、中岳、南岳、キレット、北穂、奥穂、GWに登った前穂+北尾根
更には南アルプス+富士山、ちょっとずらすと真っ白な乗鞍岳。東は八ヶ岳！ものすごい陣営、オールスターキャストである。

ここでも撮影大会である。



笠ヶ岳、遠くは白山
手前は肩ノ小屋とその上は中崎尾根



手前から大喰岳、中岳、南岳、キレット、北穂
その左が前穂+北尾根、南アルプス、
右が涸沢岳+滝谷、奥穂、乗鞍岳

さて、もう少し展望を満喫していたかったが、時間もおおしていたので、下山開始。登りにあった、圧雪のテカテカ部は後ろ向きに慎重にアイスのクライムダウンである。う〜ん厳しい、今日の核心！肩ノ小屋着軽く行動食を取り、13:30 下山開始。下山は、西鎌尾根を忠実に下る。ピラミッドピークで雪稜のトラバースでロープを出したが、それ以外は順調に下る。日も少し傾きかけ、背後の槍が美しい。自分たちの苦勞をねぎらってくれているように見下ろしている。

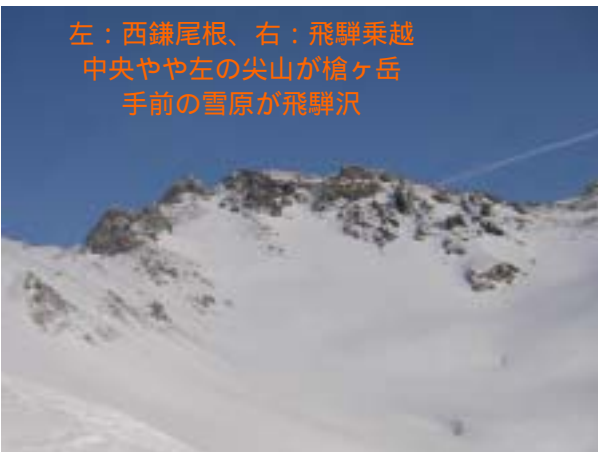
目の前には直ぐにでも滑り込みたいような美しいカールの飛騨沢が広がり、対面稜線は大喰岳を登るパーティ下るパーティが見える。少し下には、宝の木もよく見え、まるで箱庭のようだ。

千丈沢乗越付近からは登りと違うルートをとる。登ったルートは岩稜帯であり下りで使うのは望ましくないと判断した。

また、夏道も雪が溜り急斜面となっているので、その手前から斜下降していき、夏道の下部へと出て行った。

ここも、ハイマツと雪面とを上手く見極めて歩かないと、踏み抜いたり、腰までの雪に埋ったりと大変な思いをすることになる。また、このルートは雪の状態によっては雪崩が心配になるため通れないことも考えられる。

下りはやはり早く、15:44BC着。



左：西鎌尾根、右：飛騨乗越
中央やや左の尖山が槍ヶ岳
手前の雪原が飛騨沢



下山途中のボン、ハンター
バックは笠ヶ岳

テントと槍ヶ岳の前、よく冷えたワインで、完登を祝い乾杯！ううう美味すぎる！流れていくワインにのどが歓喜をあげている。昨日も呑んだ同じワインなのに、美味すぎる。こんなに美味くていいのだろうか！テント周りの雪かきをし、一息ついて薄暗い中でトイレタイム中、遠くからヘリの音、その音はどんどん近づき、BCの直ぐ下まできていた。（自分はお尻半分出して眺めていた。。。キャー見ないで）日もほとんど落ちていたので、最後ギリギリの時間のレスキューだったかと思われる。（ヘリのレスキューは日没後は行われない）後で聞いたところによると、スキーで降りた人が怪我をしたらしい。稜線をサーチライトで照らしながら、ギリギリをかすめて飛んでいった。夜は少し風が出ていたが快適な大晦日となった。夕食は年越しそば+ちらしすしである。ここで、再び事件が。。。ラジオを聞こうとしたら入らない。。。まずい。ラジオも聞ける無線機だがやはりラジオ専門にはかなわないようだ。反省です。寝る前に皆で快適なトイレを済まし、早めに就寝。

2006年1月1日正月である。5:00起床、明けましておめでとう。今年もよろしく。

ということで、正月らしく「雑煮+餅」の食事を済ませ、撤収。

7:35下山開始、下山ルートは中崎尾根を忠実に下る。が、アップダウンが多く、なかなかこの中崎尾根が手ごわい。聞くところによると、槍平から忠実に支尾根に取付いて中崎尾根をきたパーティは深いラッセルのため多くのパーティが撤退していたようで、テントも幾つかあったが、中崎尾根の下部であった。

最適な場所にテント設営できたのは自分たちと自分たちのトレースを辿って来た20m上の4人パーティだけだったようだ。（が、この4人パーティも朝の強風であきらめて、登らずに撤退した様子）

雪質、天気の状態にもよるが、忠実に中崎尾根に取付くよりも飛騨沢を行ったほうが良いこともあると実感した。（やはり自分で判断しルート選択、行動することの必要性、難しさを実感した）

中崎尾根の奥丸山手前から槍平への支尾根に入り下る、トレースもバッチリあり順調に下る。が、長い！やたら長い支尾根である。確かにこんな登りのラッセルで、その後も中崎尾根でラッセルでは気も萎える。この支尾根はところどころ亀裂に雪がかぶったところや、木の周辺の空間など踏み抜きやすく、危険場所が数箇所あった。約2名ほど踏み拭いた。。。ひたすら下り、いいかげん下りも飽きたところに、槍平到着 10:30 一本とる、天気快晴、テルモスのホットレモンを雪割りにして飲む。これまた美味い。

（今回の山行は美味しいものが多く、太りそうな山行だ）

そこで、ワカンを外す。ここからは深いきっちりしたトレースが付いており、高速道路のようになっていた。白出沢までは山道、その後は、林道の歩きである。時折休憩をとるが、日当たりでも風があると寒く時間を取らずに出発する。13:18 穂高平小屋最後の休憩をとる。

穂高平の雪原を眺めつつ、今回の山行を思い最後の感動に浸る。

14:44 駐車場着 お疲れ様でした。皆、怪我もなく無事下山し。目標の槍ヶ岳も完登できてよかったです。握手を交わしお互いの健闘を称えあう。

よかった、よかった。

登山指導センターで下山届を出し、温泉へ。

入浴前にビールで乾杯！ク~~~~皆呼吸が止る、しばし沈黙。。。ブハ~~~~美味しい、ビールがこんなに美味しいなんて。

この温泉（観光センターで教えてもらった川を渡ったところの温泉宿）、お湯を入れたばかりということでメチャ熱い。とても入れない、でも、入らないと寒い。水を全開、入れる用になるまでシャワーを浴びる。それでも、歯を食いしばりグッと我慢してゆっくり入浴。。。山の垢を落とし、ピーちゃんとお話をして帰路につく。

安房トンネル入り口では、やや左手に焼岳が赤く染まり、別れを告げていた。
「またおいで！」と言ってくれているようだった。

22:30 特に渋滞もなく、無事、宇都宮到着

<参考>

宇都宮 <=> 新穂高 走行距離：704.1km 4時間50分（往路）

安房トンネル = 750円 × 2（往復）

宇都宮 IC ~ 佐野藤岡 IC = 1400円 × 2（往復）

伊勢崎 IC ~ 松本 IC = 4450円 × 2（往復）